ご縁づくりグループとして９年間、一般寺院などをステージにみ教えに出遇えた喜びを熱く語ってきた東九州龍谷高校（宗門校、大分県中津市）のナムナムガールズ。その〝熱〟は、門信徒や僧侶など大人たちにも確実に伝わっている。

伝わる生徒たちの〝熱〟

12月３日、福岡県筑上町の長壽寺は法要の特別行事として、ナムナムガールズを初めて招いた。副住職の爪田一壽さん（49）は特別講師として同校で国語を教えている。「まさか今年で最後、そして今日が最終公演になるとも知らず、『うちでも一度』とお願いした」。

学園祭など学校でナムナムガールズの発表を見たことはあったが、門信徒の前で歌うのは初めて見る爪田さん。年配のご門徒がうれしそうに手拍子を打ち、曲に合わせて「ナ・モ・ア・ミ・ダ・ブ・ツ♪」と口ずさむ姿に驚いた。「感激でポロポロと涙を流す人もいて、長壽寺始まって以来、こんなに大きなお念仏が響いたことはかつてなかったと思う」と興奮気味に話した。

門徒総代の久保宏美さん（76）も「孫のような世代の生徒さんが懸命にお念仏の喜びを伝えようとしている。健気ですがすがしく、新鮮。自然と涙がこぼれた」と目を潤ませる。そして、「お寺とはどうあるべきか、子どもたちから考えさせられた。この活動が終わってしまうのはとても残念に思うが、彼女たちに感動をもらった私たちが、今日のこの気持ちを絶やしてはいけない」と続け、高校生から〝受け継ぐ〟思いを熱く語った。

公演後は長壽寺の役員らと記念写真